

セルフメディケーションのすすめ

医療費の負担がわが国経済に暗い影を落としている。診療報酬の改定やジェネリック医薬品の利用促進、患者の自己負担の引き上げ等の対策が講じられているものの、医療費はほぼ一貫して右肩上がりでも推移している。2000年度以降についてみると、年間の医療費は約12兆円増加している（図表）。16年間の増加率は39.8%で、この間わが国の人口はほとんど増加していない。つまり1人あたりの医療費が約4割増加したということである。

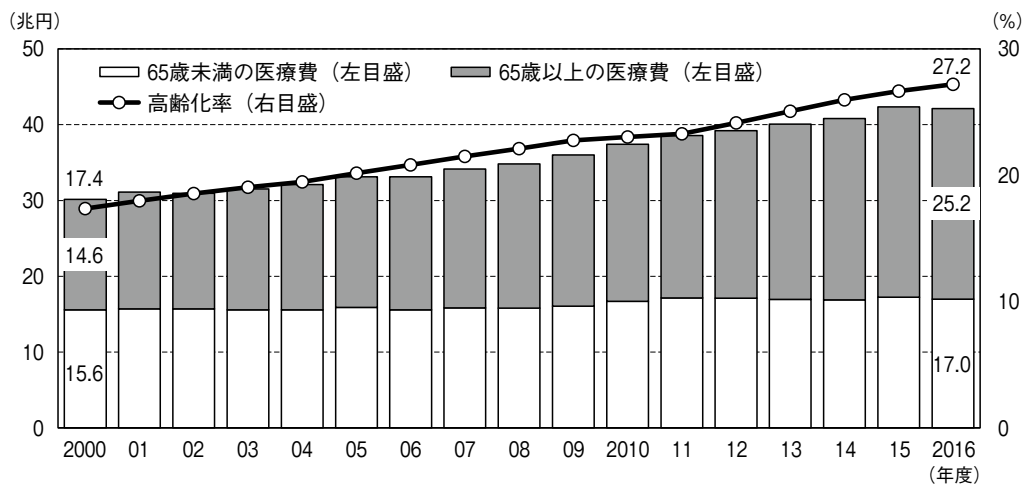
主因は高齢者の医療費増である。65歳以上の医療費は+10.6兆円と、増加寄与率は約9割を占める。診療種類別にみると、入院医療費（+4.6兆円）、薬局調剤費（+3.0兆円）の増加が目立つ。体力や免疫力の低下に伴う支出は止むを得ない。しかし治療や退院を前提としない「社会的入院」等の過剰な医療による支出が、医療費を押し上げているという指摘がなされている。

一方65歳未満についても問題がないわけではない。年間の医療費は+1.4兆円と、高齢者と比べると増加寄与は小さい。しかし、診療種類別にみると、薬局調剤費が1.3兆円から3.2兆円に急増しており、同層全体の医療費の増加額を上回った。生活習慣病の増加に伴う、高脂血症用剤や血圧降下剤などの投与の増加が影響しているものとみられる。

高齢化が急速に進むなか、医療費の膨張を抑えることは容易ではなく、政策的な対応は必要不可欠である。併せて医療の利用者も、老若男女を問わず予防医療を意識し、過度に医療に依存することなくQOLの向上を目指すべきであろう。「自助」の精神に基づき、「自分の健康は自分で管理し、軽度な疾病や怪我、身体の不調は自分で治療する」という、セルフメディケーションに取り組む意義は大きい。

（商工総合研究所調査研究室長 筒井 徹）

（図表）国民医療費と高齢化率の推移（2000～2016年度）



（出所）厚生労働省「国民医療費」各年度版、総務省「人口推計」に基づき筆者作成